

平成30年度第1回足立区総合教育会議 要旨

「就学移行プログラム」試行実施内容

【目的】

保護者・児童の不安を軽減し、安定した学校生活の提供を目指す。

【実施形式】

- ・ 児童に対し、就学予定の学校で入学前に小グループ指導を実施
- ・ 保護者に対し、講義及び座談会形式の支援を実施

【指導内容】

あいさつする、手をあげて話す（参加行動）

先生の指示に従って動く、返事をする（指示従事）

困難な状態に直面した際に分かりません、手伝ってくださいと言う
（問題解決）

待つ、順番を守る（待機）

友達を応援する、物を共有する、ありがとうと言う（対人関係）

【対象者】

「就学相談」や「気づきのしくみ」の対象世帯から抽出

【実施場所】

区内小学校2校で実施 各2名



【成果】

- ・ 就学後の小学校において、本プログラムで指導した内容が高い確率で行動できている様子が見られた。
- ・ 対象児童の学校現場への不安・緊張が軽減された。
- ・ 保護者の不安の軽減にもつながった。

実施現場や教育委員からの意見のポイント

【「就学移行プログラム」への意見】

- ・ 学校側が入学前に児童の様子を把握できた。
- ・ 新しい環境に入るということにたくさんのプレッシャーがある中で、児童にとってプラス効果があった。
- ・ 同様の取組みでは、入学体験が非常に有効だった。
- ・ 平日5日間、親子で参加するプログラムであるため参加が難しい。
- ・ 本当に支援が必要な児童がプログラムを受けられたか、疑問がある。学校で一番困っているのは、教室にいられない、席に着いていられない、多動性とか注意欠陥などの児童ではないか。
- ・ プログラム拡大に向けては、時間的、人的な課題がある。

【情報連携に関する意見】

- ・ 交流のある近くの保育園に出向き、事前に入学を控えた児童の行動を観察することで情報を得て、クラス編成時の検討材料としていた。
- ・ 幼稚園、保育園には学区域がないため、入学を予定している児童がいる全ての園との連携は難しい。
- ・ 就学前機関から学校に配慮が必要な子どもの情報をつなぐ「チューリップシート」の見直しを検討している。

【発達支援全般に関する意見】

- ・ 児童養護施設との連携や社会的擁護の強化に向けて、大学と区がコラボレーションできればと思っている。
- ・ 発達障がいを特性として受け入れられる環境づくりをできないか。

今後について

- ・ 今回の議論を踏まえ、「就学移行プログラム」の実施内容・成果を分析し、今年度以降の取組みについて検討する。
- ・ 入学予定の児童たちの情報収集を目的とした、各学校の取組みの実態を把握し、横展開を検討する。